



発行：豊町東町会 編集：事務局広報部
お問合せ 豊町ふるさと会館 Tel & Fax 04-7169-1101

今号のご案内

- AEDキット購入のお知らせ
- お相撲さんと記念撮影！
- 夏祭りで小中学生がボランティア
- 女性消防団員インタビュー
- 水戸街道物語 第2回

AEDキット2組を購入

救命講習に活用されます



AEDを使った救急救命の講習には、キット（人体とAEDの模型）が必要ですが、市が貸し出すキットの数が限られるため、開催日が思うように決められませんでした。町会ではこのほどキット2セットを購入。各区の要望に合わせた講習会の開催が可能になりました。購入したのは、ふたをあけると自動的に音声ガイドが始まるタイプ（ふるさと会館に設置）と、ふたをあけてスイッチオンで音声が出るタイプ（豊小学校に設置）の2種類。公共施設やコンビニにあるのは、どちらかのタイプ。両方体験しておけば、いざという時にあわてずに済みます。講習会の日程は各区ごとに回覧などでお知らせしますので、ぜひ参加してください。

催日が思うように決められませんでした。町会ではこのほどキット2セットを購入。各区の要望に合わせた講習会の開催が可能になりました。購入したのは、ふたをあけると自動的に音声ガイドが始まるタイプ（ふるさと会館に設置）と、ふたをあけてスイッチオンで音声が出るタイプ（豊小学校に設置）の2種類。公共施設やコンビニにあるのは、どちらかのタイプ。両方体験しておけば、いざという時にあわてずに済みます。講習会の日程は各区ごとに回覧などでお知らせしますので、ぜひ参加してください。

防災倉庫に照明

防犯カメラの設置も予定

低見台公園にある町会の防災倉庫には、これまで照明がなく、夜間の使用に不便でした。公園全体の照明も十分とはいえず、7月上旬には

数件の犯罪があつて警察へ通報したこともありました。町会では、付近の明るさのアップにも役立てようと、このほど倉庫の前面と庫内に照明器具をつけました。付近の犯罪の抑止のために、防犯カメラも設置する予定です。



80歳になる方にお祝い

民生委員が届けました



ふるさと協議会（豊町東など7町会で構成）では、今年も80歳を迎える人にカステラをプレゼントしました。当町会の該当者は41人。9月

15日、民生委員7人が自宅を訪問、カステラと町会が用意したお茶を手渡して長寿を祝いました。

NHK、相撲博物館、水族園

3か所を1日で巡りました



婦人部企画のバスツアーは、9月28日、40人が参加して行われました。東京・渋谷のNHKではスタジオパークで旬の番組の紹介コーナーを見たり、スタジオ体験も。両国の相撲博物館では、大鵬、北の湖など8人もの横綱を出した「道産子力士」展を見学。敷地内で力士との記念撮影に成功した人も。最後は話題の「豊洲市場」の建物を車窓で見ながら東京都葛西臨海水族園へ。ニュースで記憶のクロマグロをはじめ、世界中の海の生き物の姿に、みんな興奮気味。たくさん来館していた子供たちとともに、童心にかえったひと時を楽しみました。

湖上の祭り

大雨で校庭が水びたしになり、模擬店などは湖上に浮かんでいるよう。幻想的な光景が楽しめました。



夏祭りと言えば、やはり盆踊り。降り続く雨などお構いなしに、太鼓の響と踊りを楽しむ人たちも。



ブルーシートを敷いて、ウォータースライドを敢行。昨年も見られた、雨ならではのハプニングです。

中原中生徒らがボランティア 夏祭りに初参戦

町会の夏祭りは8月18日、19日に行われました。2日目は大雨に降られたにもかかわらず活気があって、なごやかでした。今回は中原中の生徒らが初めてボランティアとして参加。模擬店などで汗を流して働いてくれました。まちがいなく、これからの地域活動の担い手になるだろうという思いを強くしました。

●初めてのおみこしに興奮

焼きそば、焼きとうもろこしの店（成年部担当）を手伝ったのは、中原中3年福島和佳君、1年岩井翔嗣君、平井碧君の3人。「夏祭りは毎年手伝っていますが、ボランティアとしては初めて。作って売る側になって、大変さがわかりました。受験勉強の中の貴重な体験でした」（福島君）。「とうもろこしを焼きました。手早く上手に焼き色をつけるのが難しく、大人にけっこう叱られたけど、楽しかった」（岩井君、平井君）。



初めて。作って売る側になって、大変さがわかりました。受験勉強の中の貴重な体験でした」（福島君）。「とうもろこしを焼きました。手早く上手に焼き色をつけるのが難しく、大人にけっこう叱られたけど、楽しかった」（岩井君、平井君）。



1年生の2人は、神輿のお練りにも参加し、初めての担ぎに興奮気味でした。

●たくさんの方が買ってくれて…

焼きとりや飲みものの店（4区担当）を手伝ったのは、中原中1年の永重佐和さん、丹羽京香さん（1日目）、2年の山田葉さん、福地萌果さん（2日目）。「夏休みの思い出づくりにして。地域行事のお手伝いは初めて。作業は大変でしたが、長い行列ができて次々に買ってくれるのはうれしかった」（永重さん、丹羽さん）。「ボランティア募集の張り紙を見て面白そうだと。他のボランティアは経験ありますが、お祭りは初めて。豊小の友だちにもたくさん会えて、楽しい思い出ができました」（山田さん、福地さん）。



募集の張り紙を見て面白そうだと。他のボランティアは経験ありますが、お祭りは初めて。豊小の友だちにもたくさん会えて、楽しい思い出ができました」（山田さん、福地さん）。

●地域のお役に立てたかな

いか焼きや冷やしきゅうり、あげパンの店（1区担当）には、独協埼玉中3年、原田若菜さんが。「おばあちゃんに言われて、町会の夏祭りは小学生の頃から手伝っています。今年はたまたま夏休みの宿題が『地域とボランティア』だったので、ボランティアの意識を持って参加しました。地域のお役に立てれば、うれしいです」。



●援軍を引き連れてお手伝い



わた菓子やヨーヨーのお店（2区担当）には、中原中1年、福島ゆうかさんが、たくさんの友達を連れてお手伝い。

またおでんやワッフルのお店（3区担当）でも、地域の小中学生 13 人がお手伝いに参加。いつになく、にぎやかで活気にあふれていました。

●今年を新たなスタートに 若い力に期待します

今年の夏祭りを終えて、佐野治人会長は「豊小学校の校庭をお借りしてお祭りが、ようやく定着してきました。東町会の伝統になるように努めたい。今年は初めて中原中などの生徒さんにボランティアとして参加してもらいました。今年を新たなスタートとして、地域を支えてくれることになる若い人たちが、育ってくればと期待しています」と話しています。



●全国消防操法大会に出場 女性消防団員の藤原さん



9月30日に秋田県で、第23回全国女性消防操法大会が開催。初の地域開催となったこの大会に、当町会員の藤原美貴さん（40）が所属する柏市消防団女性分団が千葉県代表として2年連続で出場し、47都道府県中18位という成績でした。

5名1チームで行う競技では、軽可搬ポンプと呼ばれる放水ホースの設置から運搬、的を射抜くまでのタイムだけでなく、競技中の規律や正確性なども審査対象。チームからは指揮者の榎富由美子さんが昨年に続き優秀選手に選出、2年連続での受賞は23年の大会の中でも初の快挙です。

●地域での認知度を高めたい

女性消防分団の構成員は大学生から50代までの全14名、藤原さんは2014年4月に女性消防分団の発足と同時に入団。「当時、青少年協議会の相談員をやっていたのですが、その活動に携わるうちに老若男女関係なくもっと地域の活動が出来ればと思ったんです」。そう入団のきっかけを振り返ります。「操法大会の基本は集団行動なので、1人だけ走れないようにカッコ悪い」と、今年も大会に向けて週3回の練習に取り組んできたそう。消防団という体力勝負なイメージですが、必ずしもそうではないといいます。「AEDの講習ができる救急法の指導員資格を取ろうとがんばっています。講習をきっかけに、女性消防分団への関心や認知度を高めたい」と、今後の展望を語る藤原さん。「AEDの使い方もそうですが、まずは知ってもらうことが大事。知っていれば、いざという時に自分の大切な人たちを救えるかもしれない」と笑顔で締めくくってくれました。





●日用品はまかなえました

昭和30年代の地図から、当時の商店地域を再現してみました。鉄道の駅がなく、駅前商店街のない町会の中で、別雷稲荷神社の周辺にお店が集中していたようです。地域の人たちの心の寄りどころでもある神社が中心となったのでしょうか。当時は大型スーパーも少なく、常磐線をまたぐ陸橋もなかったためか、小ぢんまりしたエリアですが、けっこう繁昌していたようです。青果、魚や肉、豆腐、酒たばこや雑貨、子供に欠かせない駄菓子まで、日常必要な食品などはほぼまかなえたといわれます。また、クワ、スキ、かご、ざる、おけを作ったり販売する店がいくつかあって、このあたりはまだ農業に従事する世帯が多かったことを示しています。農具を作っていた松丸さん方の作業場が現在も残っています。



●入植直後の明治3年に創建 雨乞いの別雷稲荷神社



昭和22年10月15日、遷宮式を記念して

別雷稲荷神社は、開墾、入植が始まってまもない明治3年(1870)に創建されました。水利が悪く、畑に必要な慈雨と豊作を願って建てられたものだけに、入植した人たちの苦労の思いが伝わってきます。「豊四季五号坪」(この地の古い字名)の鎮守様として、代々の氏子に守られてきました。

●珍しい馬の彫刻

当初は旧水戸街道の西側にありましたが、明治29年に現在の地に移されました。現社殿は昭和22年に、地元の大工鈴木新太郎さん(故人)が建て直したものです。社殿の前面上部に2頭の馬が向き合う立体的な彫刻がされています。その由来を示す記録などはありませんが、氏子の長老らは「かつて小金原の牧で、野馬がたくさんいた土地だからでは」と推察しています。



このあたりの農作物はさつまいもや岡穂(陸稲)で、昔から水は雨頼み。同神社の雨乞いの行事は戦後も続けられたそうで、茨城県の金村神社から自転車に神水をのせて運んだという長老の話には驚きます。利根川を越えて往復するのに丸一日かかったとか。運ばれてきた水に、こちらの水を足して、しめ縄を張ったたるに入れ、笹の葉で水をまいて降雨を願ったということです。



※今回の記事は、この土地に生まれ育ち、別雷稲荷神社の氏子でもある鈴木英男さん(80)、鈴木一男さん(81)、松丸和義さん(76)らにお話をうかがってまとめました。